

# 内外情勢の回顧と展望

Review and Prospect of Internal and External Situations



平成21年(2009年)1月

**公安調査庁**

Public Security Intelligence Agency

## はしがき

公安調査庁は、「破壊活動防止法」や「無差別大量殺人行為を行った団体の規制に関する法律」（団体規制法）に基づき、オウム真理教に対する観察処分の実施など、団体の規制及び規制のための調査を行うとともに、我が国の情報コミュニティの一員として、国際テロや北朝鮮情勢など国内外の情報を収集・分析している。

この「内外情勢の回顧と展望」は、平成20年における国内外の公安動向を回顧し（11月末現在）、今後を展望したものである。

なお、本文中、特に断りのない限り、「〇月」との表記は、原則として平成20年（2008年）の当該月を指し、本文に記載した人物の肩書きは、当時のものである。



公安調査庁本庁（東京・霞ヶ関，中央合同庁舎6号館）

「内外情勢の回顧と展望」は、公安調査庁ウェブサイトでも御覧になれます。

[www.moj.go.jp/KOUAN/](http://www.moj.go.jp/KOUAN/)

# 目次

第1 平成20年の公安情勢の概況	1
第2 平成20年の国際情勢	3
1 北朝鮮・朝鮮総聯	
(1) 無能力化作業は再開されるも、先行き不透明な北朝鮮核問題	3
コラム 米国によるテロ支援国家指定	
(2) 経済再建に腐心する中、金正日総書記の健康問題に直面する北朝鮮	6
コラム 北朝鮮の「強盛大国建設」について	
(3) 一進一退の日朝関係、先行き不透明な拉致問題調査	8
(4) 李明博政権の対北朝鮮政策に反発、対韓姿勢を硬化させる北朝鮮	10
(5) 組織の勢力回復と引締めで腐心する朝鮮総聯	12
(6) 安定した関係の構築に努める北朝鮮と中国	14
2 中国	
(1) 四川大地震、チベット暴動などを乗り越え、北京オリンピックを開催したが、引き続き社会問題是正に苦慮する中国	15
(2) 「和諧世界」を標榜しつつ、実利優先の外交を推進	18
(3) 胡錦濤政権は国内の反日世論の動向に留意しつつ、対日重視の外交姿勢を継続	20
(4) 馬英九国民党政権発足で中国の平和統一攻勢が進展	22
3 ロシア	
(1) メドベージェフ新大統領の下、プーチン路線を継続するロシア	24
(2) 北方領土開発を本格化させたロシア	26
4 中東	
(1) 依然として不透明な中東情勢	27
コラム アデン湾・ソマリア沖の海賊活動が国際海運への脅威に	
(2) イランの核・ミサイル開発は、依然として継続	29

## 5 我が国に対する有害活動など

我が国は先端技術情報などの国外流出阻止に向け、取組を推進 — 31

## 6 国際テロ

(1) 「アルカイダ」は、引き続き国際社会に対する重大な脅威 — 32

(2) アフガニスタン及びパキスタンで攻勢を強める「タリバン」勢力 — 34

コラム 「タリバン」の結成経緯と現状

(3) アジア各地で、イスラム過激派によるテロの脅威が継続 — 36

## 第3 平成20年の国内情勢 — 38

### 1 オウム真理教

(1) “麻原回帰”路線を徹底し、更に組織の結束強化を図る主流派 — 38

(2) “麻原隠し”路線を推進し、観察処分逃れをもくろむ上祐派 — 39

(3) 公安調査庁は観察処分の期間の更新請求 — 41

コラム 国内におけるオウム真理教の信徒数推移

### 2 共産党・過激派等

(1) 「在日米軍再編・強化反対」や「自衛隊海外派兵反対」を掲げた活動を活発化 — 45

(2) 非正規雇用、後期高齢者医療制度など国民生活にかかわる諸問題で政府批判を展開 — 47

(3) 対権力姿勢を強めつつ、労働分野を中心に勢力拡大に努める過激派 — 50

(4) 解散・総選挙を意識して諸活動に取り組んだ共産党 — 53

(5) 「よど号」グループ・日本赤軍の動向 — 55

### 3 右翼団体

中国、韓国などとの外交・領土問題をとらえて活動した右翼団体 — 56

## 第4 北海道洞爺湖サミットをめぐる動向 — 59

北海道洞爺湖サミットをめぐり、国内外の諸団体が様々な活動を展開 — 59